

事務事業名 市民バス運行管理事業		所属部 政策企画部	所属課 地域振興課
総合計画体系	政策名 (Ⅱ)安全・安心で快適なまち《定住環境》	所属G 地域振興グループ	課長名 西村 健一
	施策名 (14)公共交通ネットワークの充実	担当者名 松井 英樹	電話番号 0854-40-1013 (内線) 2313
	目的 対象 公共交通機関利用者 意図 市内及び市外に向けて安全・便利に移動できる。	予算科目	会計 款 大事業 大事業名 公共交通対策事業 項 目 中事業 中事業名 市民バス運行事業
	基本事業名 (039)公共交通体系の確保 目的 対象 公共交通機関利用者 意図 利便性の高い公共交通機関を利用する。		

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間	
☐ 単年度のみ	☒ 単年度繰返 (16 年度～)
☐ 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
市民の交通手段の確保を図り、公共の福祉の増進に資するため、道路運送法第79条の規定により市町村運営有償運送バスを運行する事業。	

(2)事務事業の手段・指標

手段

① 主な活動						
27年度実績(27年度に行った主な活動) 市内全路線の運行管理等業務(運行等業務委託契約事務、通行規制、苦情対応など)、国補助金・県交付金交付申請事務 バス一元化システムの構築、吉田地域バス見直し(デマンド型バスのみに移行) 高校魅力化に伴う市内高校への通学利便性向上につながるダイヤ改正		28年度計画(28年度に計画する主な活動) 平成27年度と同様の業務 加茂路線バスの利用実態把握とバス運行の見直し バス一元化システムの改善・機能向上 吉田デマンドバスの見直し				
② 活動指標		単位	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (計画)
ア	路線数	路線	35	28	28	23
イ	運行便数	便	143	122	118	103
ウ						
エ						

(3)事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
	市民	ア 人口	人	40,055	39,472	38,990	38,968
		イ					
		ウ					
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
	市内での移動を安全、快適、円滑にできる。	ア 市民バス利用者数(だんだんタクシー除く)	人	208,708	189,705	163,859	160,000
		イ					
		ウ					

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (27年度決算)		② コストの推移		単位	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(計画)	
【市民バス運行事業】 運行管理委託料 144,474千円、車検諸費用等 2,056千円(保険・重量税等)、車両等修繕費13,445千円、市民バス再編業務委託2,999千円、市民バス情報一元化システム構築業務委託1,070千円、4,450千円(時刻表印刷代、バス停移設他)		事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	600	250	413	400
				県支出金	千円	10,392	17,291	14,619	16,470
				地方債	千円		2,900	2,900	2,900
				その他	千円	26,838	22,206	18,462	18,058
				一般財源	千円	160,946	136,833	132,100	137,286
		事業費計 (A)		千円	198,776	179,480	168,494	175,114	
		人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2		
			延べ業務時間	時間	1,379	1,379	1,379		
			人件費計 (B)	千円	5,368	5,362	5,397		
		トータルコスト(A)+(B)		千円	204,144	184,842	173,891		

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
過疎高齢少子化による人口減少に伴い、利用者数も減少傾向にある中、平成20年度に「雲南市地域公共交通総合計画」を策定し、平成23年度には「雲南市民バス再編計画」を策定。高齢者等にやさしい交通社会の実現を目指し、幹線の統一化や地域への新たな交通システムの導入を進めている。	利用が少ない路線についての運行便数、時間帯見直し・デマンド型乗合タクシーへの移行検討。広域バスと地域バスの接続改善。事務の効率化のため、バス管理システムの構築、業務のアウトソーシング検討。主な利用者である高校生の通学利便性向上につながるダイヤの見直し。(高校魅力化)	①古いバスが多く修繕が多々必要であるため、新しい車両導入要望がある。②市民バスのルート及びダイヤ変更要望③市民・議会から昼間の利用者数が少なく「空バスが走っている」「燃料資源のムダ遣い」、デマンド型乗合タクシーのエリア拡大などの意見要望がある。④バス停留所が古い場所が多く修繕要望が寄せられている。

事務事業名	市民バス運行管理事業	所属部	政策企画部	所属課	地域振興課
-------	------------	-----	-------	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由
	☐ 見直し余地がある ☒ 結びついている * 余地がある場合 ➡		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？		
B 有効性	☐ 見直し余地がある ☒ 妥当である * 余地がある場合 ➡		
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？		
	☐ 見直し余地がある ☒ 適切である * 余地がある場合 ➡		
C 効率性	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？		
	☒ 向上余地がある ☐ 向上余地がない	理由	運行形態やルート・便数・時間帯など市民バス運行を見直し、より効果的効率的な運行を図り、利便性を維持向上させていくことで、利用者の満足度を高めることができる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		
D 公平性	☐ 影響無 ☒ 影響有		理由
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		
	☒ 他に手段がある * ある場合 ➡ (具体的な手段や類似事業名) スクールバス管理事業。 ☒ 統廃合・連携ができる ☐ 統廃合・連携ができない ☐ 他に手段がない 理由 一般利用者の少ない混乗型スクールバスを専用スクールバスに替えることで、利用が少ない路線の廃止や実態に併せデマンド化すれば、事業費削減・事務の効率化に繋がる。		
E 評価 の 総 括	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		
	☒ 削減余地がある ☐ 削減余地がない		理由
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		
F 今後の 方向性 【PLAN】	☒ 削減余地がある ☐ 削減余地がない		理由
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		
	☐ 見直し余地がある ☒ 公平・公正である		
G 評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)
	A 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり B 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり C 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり D 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり		人口減少・少子高齢化が進む中、利用者の増は見込めず、市民バスの利用者についても、年々減少している現状にある。しかしながら、交通弱者の移動手段を維持確保し、運行経費の抑制を図りながら、新たなデマンド交通システムの導入による利便性の向上を行ない、利用促進と継続的な市民バス運行を図る必要がある。

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																						
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☒ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善) ☒ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善) ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		平成20年度に策定した『雲南市地域公共交通総合連携計画』及び平成23年度に策定した『雲南市公共交通再編計画』に基づき、引き続き公共交通の活性化に向け事業展開する。																						
		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上	●			維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上	●																						
	維持			×																				
	低下		×	×																				
		廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。																						